

待望の東京での初展覧会！！



茨木のり子 展

2014年4月19日(土)～6月29日(日)世田谷文学館

画像① 撮影:谷川俊太郎

お問い合わせ 世田谷文学館 学芸部学芸課 担当:小池・瀬川
TEL: 03-5374-9111 FAX: 03-5374-9120
〒157-0062 東京都世田谷区南烏山 1-10-10

自分の感受性くらい 自分で守れ ばかものよ

(「自分の感受性くらい」)

現代の女性詩人のなかで最も人気のある一人、茨木のり子(1926～2006)。朝日新聞「天声人語」に紹介されたことから詩の愛好者を超えて大きな反響を呼んだ「倚りかからず」、中学校国語教科書にも掲載されている「わたしが一番きれいだったとき」をはじめ、「自分の感受性くらい」「六月」「汲む」などの詩で知られています。「品格で書かれた」、「人格で書かれている」とも評される詩の、自らを律し鼓舞する言葉は、読む人の心にも深く響きます。

本展覧会では、詩稿、草稿、創作ノート、「櫛」同人をはじめとした詩人たちとの書簡、先立った夫のために書かれ、没後刊行された『歲月』遺稿など、貴重な資料を通して茨木の詩作世界をひもとくとともに、女性として日常を大切に暮らした姿も日記やスクラップブックなどからご紹介します。

最愛の夫を亡くした翌年、50歳で韓国語を学び始めた茨木は隣国とその文化への関心を数々の著作に記し、14年後には韓国現代詩の翻訳刊行を果たします。このように大きな喪失感から自ら歩を進め、たおやかに、且つ凛として“倚りかからず”生きた彼女の詩と文章は、先行きに不安を抱く私たちが汲むべきものに富み、生きることに清々しい勇気を与えてくれることでしょう。



【茨木のり子(1926～2006) プロフィール】

画像② 撮影:谷川俊太郎

1926年6月12日、大阪府生まれ。愛知県西尾市で育つ。帝国女子医学・薬学・理学専門学校薬学部(現・東邦大学薬学部)に学び、1946年に繰り上げで卒業。終戦を迎えた時、20歳だった。46年から47年にかけて、世田谷区の梅ヶ丘に下宿。戦後、戯曲や放送童話を書くが、金子光晴の作品との出会いから詩への思いを強めて「詩学」等に投稿する。50年に医師の三浦安信と結婚。1953年に川崎洋の誘いで同人誌「櫛」の創刊に携わる。同誌には、谷川俊太郎、吉野弘、中江俊夫、大岡信、水尾比呂志、岸田衿子が参加。

代表的な詩集に『見えない配達夫』『人名詩集』『自分の感受性くらい』『寸志』『歲月』など。1999年に刊行された詩集『倚りかからず』は、朝日新聞の「天声人語」で取り上げられたことで話題になり、詩集としては異例の売り上げを記録。また、50歳の頃から隣国の言葉と文化に関心を寄せて学び始め、韓国現代詩人と交流を深め、韓国現代詩紹介で大きな役割を果たした『韓国現代詩選』により1991年に読売文学賞を受賞。ほか、エッセイ『ハンブルへの旅』『一本の茎の上に』、梅ヶ丘時代に作った放送童話を基とした童話『貝の子プチキュー』などがある。

【主な出品資料 いずれも個人蔵】

1、「櫛」創刊号（1953年5月15日、櫛の会）

茨木のり子「方言辞典」、川崎洋「にじ」の2篇を収録。以降、谷川俊太郎、舟岡遊治郎、吉野弘、水尾比呂志、中江俊夫、大岡信、友竹辰（正則）、岸田衿子、飯島耕一らが同誌に参加した。

2、茨木のり子の詩集

『対話』（1955年、不知火社）、『見えない配達夫』（1958年、飯塚書店）『鎮魂歌』（1965年、思潮社）、『人名詩集』（1971年、山梨シルクセンター出版部）、『自分の感受性くらい』（1977年、花神社）、『寸志』（1982年、花神社）、『食卓に珈琲の匂い流れ』（1992年、花神社）、『倚りかからず』（1999年、花神社）、『歲月』（2007年、花神社＊没後刊行）

3、茨木のり子翻訳による『韓国現代詩選』（1990年、花神社）

韓国語の勉強で新たな意欲を見出し、隣国の言葉と文化に深い理解を抱いた茨木が、言葉の恩返しとして韓国の現代詩を日本語に翻訳。読売文学賞を受賞。茨木本人の蔵書には校正用の付箋が幾カ所も残されている。

4、「Y」の箱

先立った最愛の夫・三浦安信に向けて書かれた詩、草稿一式が納められていた。生前は発表しないという茨木の遺志に添い、没後に甥の手により詩集『歲月』として刊行された。

5、《ガスパーチョ》レシピメモ

スープの作り方メモ。次頁に「ミキサーにかける 薬味 赤ピーマン クルトン」と続く。料理、美味しいものが好きで、自宅をよく、親族や友人たちを手料理でもてなした。



画像③ 「櫛」創刊号
(1953年5月15日、櫛の会)



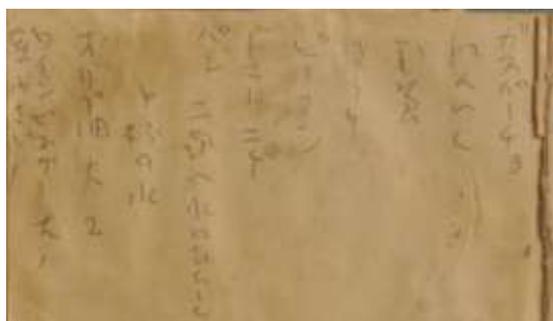
画像④ 茨木のり子の詩集



画像⑤ 茨木のり子翻訳による『韓国現代詩選』
(1990年、花神社)



画像⑥ 「Y」の箱



《ガスパーチョ》レシピメモ

【関連イベント】 会場：世田谷文学館 1階文学サロン

参加申込方法

いずれも各締切日までに往復ハガキにて、①イベント名②参加者全員の氏名・住所・電話番号③返信面に代表者の氏名・住所を明記のうえ、世田谷文学館「茨木展関連イベント」係までお申し込みください（1 イベントにつき1枚、【1】は付添の大人を含めて何人でも連名可、【2】～【5】は3人まで連名申込可）。応募者多数の場合は抽選となります。結果は締切後、返信ハガキでお知らせします。 ※【4】【5】は、未就学のお子さんの参加はご遠慮ください。

【1】 こどもワークショップ

「詩」って、むずかしいのかな？いばらきのりこさんは、仲間^{なかま}のかわさきひろしさんへの手紙^{てがみ}で、「日本語^{にほんご}にたいするいろいろなじっけん」をていあんしています。みんなも、ことばであそびながら詩のなかへ“たんけん”しに行こう！

日 時＝5月11日（日）14:00～16:00

講 師＝石津ちひろ（詩人）

対 象＝小・中学生

定 員＝事前申込 100名（未就学児、付添の大人も参加可）

参 加 費＝無料

申込締切＝4月27日（必着）

*申込ハガキに、参加されるお子さん全員の年齢か学年を明記してください。

【2】 記念対談

「櫛」の同人で交友の深かった谷川俊太郎氏と、詩人の小池昌代氏のお二人に、茨木のり子の詩の世界について語っていただきます。

日 時＝5月17日（土）14:00～15:30

出 演＝谷川俊太郎（詩人）×小池昌代（詩人）

対 象＝一般

定 員＝事前申込 150名

参 加 費＝500円

申込締切＝5月3日（必着）

【3】 記念講演

茨木のり子の後半生の仕事、著作の中で大切なテーマとなった隣国・韓国。その関心を導いた韓国語の恩師、金裕鴻^{キムユホン}氏にお話していただきます。

日 時＝5月25日（日）14:00～15:30

出 演＝金 裕鴻^{キム ユホン}（NHK文化センター講師）

対 象＝一般

定 員＝事前申込 150名

参 加 費＝500円

申込締切＝5月11日（必着）

【4】記念コンサート「茨木のり子を弾き語る」①

日 時＝6月21日(土) 18:00～(終演予定 19:30)
演奏作品＝「りゅうりえんれんの物語」(詩：茨木のり子)
出 演＝沢知恵(シンガーソングライター)
対 象＝一般
定 員＝事前申込 150名
参 加 費＝1,500円
申込締切＝6月7日(必着)

【5】記念コンサート「茨木のり子を弾き語る」②

日 時＝6月22日(日) 16:00～(終演予定 17:30)
演奏作品＝「わたしが一番きれいだったとき」、「自分の感受性くらい」(いずれも詩・茨木のり子) 他
出 演＝沢知恵(シンガーソングライター)
対 象＝一般
定 員＝事前申込 150名
参 加 費＝1,500円
申込締切＝6月8日(必着)

開催要項

展覧会名 「茨木のり子」展
会期 2014年4月19日(土)～6月29日(日)
会場 世田谷文学館 2階展示室
開館時間 10:00～18:00(展覧会入場、ミュージアムショップは17:30まで)
休館日 毎週月曜日(ただし5月5日は開館、5月7日は休館)
観覧料 一般700(560)円、65歳以上・大学・高校生500(400)円、中学生以下無料
障害者350(280)円 * ()内は20名以上の団体料金
※4月19日(土)は開館記念、6月7日(土)は地域催事による無料観覧日となります。
※5月2日(金)は65歳以上の方は企画展を無料でご覧いただけます。
(年齢を確認できるものをご提示ください)
交通案内 京王線：芦花公園駅南口から徒歩5分
小田急線：千歳船橋駅から京王バス(「千歳烏山駅」行)「芦花恒春園」下車徒歩5分
主催 公益財団法人せたがや文化財団 世田谷文学館
後援 世田谷区、世田谷区教育委員会
協賛 株式会社ウテナ

次回企画展

「日本SF展・SFの国」

2014年7月19日(土)～9月28日(日)



公益財団法人 せたがや文化財団
世田谷文学館
SETAGAYA LITERARY MUSEUM
〒157-0062
東京都世田谷区南烏山1-10-10
TEL03(5374)9111 FAX03(5374)9120
ホームページ <http://www.setabun.or.jp/>

広報用画像貸出申込書

世田谷文学館学芸部 小池・瀬川 行 FAX 03-5374-9120

展覧会広報用として画像をご用意しています。ご希望の際は下記貸出条件をご確認のうえ、本申込書に必要事項をご記入いただき、FAXにてお申し込みください。EメールにてJPGデータで画像をお送りいたします。

なお、本展記事をご掲載いただく際は、恐れ入りますが情報確認のため、掲載前に校正紙をお送りください。また、発行後、掲載誌を1部お送りください。

※読者・視聴者プレゼント用に招待券をご用意しています。ご希望の場合は、あわせてお申し込みください。
(プレゼント当選者への発送作業は御社にてご負担ください。)

広報用画像貸出条件

- 画像は展覧会紹介の目的のみにご使用ください。
- 画像のトリミング、画像に文字を重ねるレイアウトはお控えください。
- 画像データは、ご使用后必ず消去してください。
- 画像データを第三者に渡すことを禁じます。
- インターネット上で掲載する場合には、画像をコピーできないよう処置し、会期終了後は必ず削除してください。
- 画像には撮影者、提供先のクレジット表記を必ずお入れ下さい。

掲載雑誌名・番組名・WEBサイト名

媒体種別 新聞・雑誌・フリーペーパー・テレビ・ラジオ・WEBサイト

発売・放送・更新予定日

御社名

御担当者名

御住所

Eメールアドレス

電話番号

FAX 番号

画像(ご希望の画像番号に印をつけてください。)

- 画像① (撮影:谷川俊太郎)
- 画像② (撮影:谷川俊太郎)
- 画像③ (「櫂」創刊号)
- 画像④ (茨木のり子の詩集)
- 画像⑤ (茨木のり子翻訳による『韓国現代詩選』)
- 画像⑥ (「Y」の箱)